(第1面)

産業廃棄物処理計画書

2022年 6月 20日

愛知県知事 殿

提出者

住 所 名古屋市中区錦2-12-14 MANHYO第一ビル5F

氏 名 東洋建設株式会社 名古屋支店

執行役員名古屋支店長 小玉 友彦

(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 052-221-7301

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他 その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業	場の	名 称	東洋建設株式会社 名古屋支店
事業	場の所	在地	名古屋市中区錦2-12-14 MANHYO第一ビル5F
計	画 期	間	2021年 4月 1日 ~ 2022年 3月 31日
当該事業	美場において 現	に行って	いる事業に関する事項
	① 事業の) 種類	06:総合工事業
	② 事 業 0)規模	元請完成工事高:96.6億円/年
	③ 従 業	員 数	約70人
	④産業廃棄物 の処理の工		がれき類及びがらす・陶磁器くず⇒ 中間処理業者へ委託し、再生砕石等にて再利用。 廃プラスチック類⇒ 中間処理業者へ委託し、選別後一部再利用。 建設汚泥⇒ 中間処理業者へ委託し、乾燥後再利用。 紙くず⇒ 中間処理業者へ委託し、再生紙等にて再利用。 建設木くず⇒ 中間処理業者へ委託し、再生チップ等にて再利用。 廃石膏ボード⇒ 中間処理業者へ委託し、製造メーカーにて再生利用。 混合廃棄物⇒ 中間処理業者へ委託し、安定型もしくは管理型にて埋立処分等。

(日本産業規格 A列4番)

産業廃棄物処理に係る管理体制に関する事項 (管理体制図) 建設副産物等管理に関する社内体制図 本社管理部門 安全環境部管準役員 (建設基礎物等担当役員) 管理、事業本部長 (建設副産物等総括管理者) 本社安全環境部長 支店管理部門 (建設副産物等総括管理者) 支店安全環境部長 生木部長 (建設副産物等総括管理者) 建築部長 (建設副産物等総括管理告) 総業所長 (建設副產物処理責任者) (建設副産物処理責任者) (建設副産物処理担当者) (建設副産物処理担当者) 産業廃棄物の排出の抑制に関する事項 【前年度(2021年度)実績】 別紙1 による 産業廃棄物の種類 排 出 量 (これまでに実施した取組) ・建設に係る搬入資材の梱包材を削減するよう指導。 ①現状 ・場内で発生する端材の有効もしくは再利用。 ・金属やダンボール等の有償償却による再生利用。 ・余剰材の発生抑制や専門業者による引取り再使用。 【目標】 別紙1 による 産業廃棄物の種類 排 出 量 (今後実施する予定の取組) ・上記取組に加え、建設資材の工場による加工率を上げる要請と、現場での ②計画 端材発生抑制を継続して指導する。 ・3R運動の展開や再生砕石等の使用による積極的なリサイクル運動を展開 ・建設廃棄物の「ゼロミッション」を実施する現場を模範現場として設定 し、他の現場へ展開を図る。 産業廃棄物の分別に関する事項 (分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・がれき類、廃プラスチック類、紙くず、建設木くず、金属くず、建設汚 泥、石膏ボード等を分別中。 (現状混廃率:約2.5%) ①現状 (今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・狭小現場においても袋詰め等の小分別を行う。 また、分別種類を具体的 にイラスト化して掲示し、「見える化」による確実な分別と再生効率を高め ②計画 る。

自ら行う産業廃棄物の再生	生利用に関する事項								
	【前年度(2021年度)実績】								
	産業廃棄物の種類								
①現状	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	0t	t						
(J-7)47)((これまでに実施した取組) ・実施していない。								
	【目標】	_							
	産業廃棄物の種類								
②計画	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	Ot	t						
	(今後実施する予定の取組) ・実施予定なし。								
自ら行う産業廃棄物の中間	間処理に関する事項								
	【前年度(2021年度)実績】	【前年度(2021年度)実績】							
	産業廃棄物の種類								
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	Ot	t						
①現状	自ら中間処理により減量 した産業廃棄物の量	Ot	t						
	(これまでに実施した取組) ・実施していない。								
	【目標】								
	産業廃棄物の種類								
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	0t	t						
②計画	自ら中間処理により減量 する産業廃棄物の量 (今後実施する予定の取組)	Ot	t						
	・実施予定なし。								

ら行う産業廃棄物の埋	立処分又は海洋処分に関する事項		
	【前年度(2021年度)実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋処分を行った 産業廃棄物の量	Ot	t
①現状	(これまでに実施した取組) ・実施していない。		
	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋処分を行う 産業廃棄物の量	Ot	t
②計画	(今後実施する予定の取組) ・実施予定なし。		
	に関する事項		
	【前年度(2021年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	全ての廃棄物	
	全処理委託量	1, 403. 79t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	251. 13t	t
	再生利用業者への 処理委託量	1, 403. 79t	t
①現状	認定熱回収業者への処理 委託 量	0t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	0t	t
	(これまでに実施した取組) ・弊社は自社の廃棄物処理施設 処理業者に委託している。 ・がれき類、建設木くず等の再 者選定を指導している。 ・電子マニフェスト使用を原則	生可能な廃棄物は、再	生利用率の高い処理業
	・優良処理認定業者の選定委託	:を、今後も継続して現	場指導を進める。

(第5面)

	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙2	による
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	T	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
②計画	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組) ・廃掃法等の法改正については 約上の不備が生じないよう管理 ・再生可能な廃棄物は、再生系 ・優良処理認定業者の選定を る。 ・委託契約先の処理業者へ現場 実施していく。	理指導する。 川用業者に委託を継続す 二事開始時に現場に通知	る。し、委託契約を推奨す
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元 請完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種 に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
 - 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

【前年度(2021年度)実績】

	廃棄物の種類	がれき類	がれき類	がわ 多類	ガラス・コンクリー ト・陶磁器くず	廃プラスチッ ク	金属くず	汚泥	紙くず	木くず	混合廃棄物
	名称(任意の名称を記入してくださ い)	(コンクリートが ら)	(アスコンがら)	(その他がれき類)							(管理型)
1	排出量(t)	970.79	145.69	4.88	3.40	71.55	10.05	30.80	6.07	101.68	35.68
2	自ら再生利用を行った量(t)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	自ら埋立処分又は海洋投入処分を 行った量(t)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(5)	自ら熱回収を行った量(t)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	自らの中間処理による減量(t)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10	処理委託した全量(t)	970.79	145.69	4.88	3.40	71.55	10.05	30.80	6.07	101.68	35.68
11)	優良認定処理業者への 処理委託量(t)	17.01	2.81	1.92	3.40	65.25	10.05	0	6.07	100.24	35.68
12	再生利用業者への処理委託量(t)	970.79	145.69	4.88	3.40	71.88	10.05	30.80	6.07	101.68	35.68
13	認定熱回収業者への処理委託量(t)	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0
14)	認定熱回収業者以外の熱回収を 行う業者への処理委託量(t)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

【前年度(2021年度) 実績】

	廃棄物の種類						
	名称(任意の名称を記入してくださ い)	(廃石膏ボー ド)	その他(石綿 含有ガレキ)				
1	排出量(t)	23.20	1.48				
2	自ら再生利用を行った量(t)	0	0				
3	自ら埋立処分又は海洋投入処分を 行った量(t)	0	0				
5	自ら熱回収を行った量(t)	0	0				
7	自らの中間処理による減量(t)	0	0				
10	処理委託した全量(t)	23.20	1.48				
11)	優良認定処理業者への 処理委託量(t)	8.70	1.48				
12)	再生利用業者への処理委託量(t)	23.20	1.48				
13)	認定熱回収業者への処理委託量(t)	0	0				
14)	認定熱回収業者以外の熱回収を 行う業者への処理委託量(t)	0	0				

【今年度(2022年度)計画】

	廃棄物の種類	がれき類	がれき類	がわき類	ガラス・コンクリー ト・陶磁器くず	廃プラスチッ ク	金属くず	汚泥	紙くず	木くず	混合廃棄物
	名称(任意の名称を記入してくださ い)	(コンクリートが ら)	(アスコンがら)	(その他がれき類)							(管理型)
1	排出量(t)	500	100	10	10	50	5	15	5	80	20
2	自ら再生利用を行う量(t)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	自ら埋立処分又は海洋投入処分を 行う量(t)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤	自ら熱回収を行う量(t)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	自らの中間処理による減量(t)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10	処理委託する全量(t)	500	100	10	10	50	5	15	5	80	20
11)	優良認定処理業者への 処理委託量(t)	300	50	5	5	40	5	10	3	72	10
12	再生利用業者への処理委託量(t)	500	100	10	10	50	5	15	5	80	20
13	認定熱回収業者への処理委託量(t)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
14)	認定熱回収業者以外の熱回収を 行う業者への処理委託量(t)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

【今年度(2022年度)計画】

	廃棄物の種類						
	名称(任意の名称を記入してくださ い)	(廃石膏ボー ド)					
1	排出量(t)	15					
2	自ら再生利用を行う量(t)	0					
3	自ら埋立処分又は海洋投入処分を 行う量(t)	0					
5	自ら熱回収を行う量(t)	0					
7	自らの中間処理による減量(t)	0					
10	処理委託する全量(t)	15					
11)	優良認定処理業者への 処理委託量(t)	10					
12	再生利用業者への処理委託量(t)	15					
13)	認定熱回収業者への処理委託量(t)	0					
14)	認定熱回収業者以外の熱回収を 行う業者への処理委託量(t)	0					